

ISEP インターン体験記

ISEP インターンを始めたきっかけ

私がインターンを始めたのは 2020 年 11 月の末で、10 月に海外の大学院を卒業した直後でした。新型コロナウイルスの影響で卒業式に参加することが難しくなり、必然的に、日本で何かしようと考えようようになりました。そこで、社会問題について日々情報を得ていたのが『Choose Life Project』です。これは、テレビの報道番組や映画、ドキュメンタリーを制作している有志で始めた映像プロジェクトで、電気がテーマの会で ISEP 飯田哲也所長が出演しているのを見ました。大学院在学中から「未来世代の人権」に関心があったため、環境問題に取り組む NPO 法人に自然と興味が湧いたことを覚えています。そして、ISEP のホームページに行き、インターンに応募するまで時間はかかりませんでした。主にオンラインでインターンが完結できる点も、当時地元の北海道帯広市に滞在していた私にとって、インターンの参加を即決する重要なポイントでした。



Global Campus of Human Rights

主な業務内容と学んだこと

太陽光地域トラブル案件調査に関わる中で、メガソーラーが自分の馴染み深い土地にできてしまうことへの心理的影響、また地元住民の意向が十分に反映されないことや利益が地域に十分に還元されないこと、さらに、太陽光発電に関する条例が未整備な状態が更なる搾取を生みかねないことを学びました。実は、それまでは、火力や原子力に比べてはるかにクリーンで、環境負荷

が低い太陽光発電に反対する人がなぜいるのだろう？とっていました。太陽光発電所建設の裏には森林伐採や景観の破壊、災害の危険性など、懸念すべき問題が沢山あり、地元住民の人が、太陽光発電自体に反対したいわけじゃない、ということが多いことも知りました。この経験を通して、はたから見るともどかしいようなことも、その背後には非常にたくさんの人が必死に協力し合い、前進していること、また、太陽光発電所建設に関わるアクターは単に開発会社と地元住民だけではなく、投資会社や施工会社、保険会社などの多くのアクターが複雑に絡んでいることへの理解が深まったと思います。

私はインターン期間の半分以上をポルトガルで過ごしたため、アクティブな作業に関わることは少なかったと思いますが、3.11 のオンラインイベントに、動画の字幕翻訳という形で関わ

修士号 取得

眞鍋 悠眸子（マナベユメコ）

インターン期間 2020.12-2021.4

2021 年 4 月 16 日

れたことはとても嬉しかったです。インターン一人一人が行うプレゼンテーションでは、毎回学ぶことばかりで、コンポストやインドネシアのバイオマス、新電力のおらって新潟などが、とくに印象に残っています。また、インターン卒業生の方に民間企業でのお話を聞いたり、就職相談ができたことも、貴重な経験でした。

最後に、このインターンはただ知識を蓄えるだけの期間ではなく、学生の枠を飛び越え、世の中で実際に何が起きているかに触れることができる重要な機会でした。当初は大学院を卒業したばかりで自分がどんな環境で働くのが最適なのかいまいちわかっていませんでしたが、インターンを通じて、自分の目標を再確認することができました。

インターンを考えている人へ

私は環境問題に漠然とした関心はありましたが、知識と言われると、エネルギーに関しては全くなかったと思います。また、自分が文系の出身であることから、インターンの内容についていけるかととても不安でした。しかし、そのような「文系」「理系」の概念から飛び出したいという気持ちと、環境問題に文系も理系も関係ないなという思いから、飛び込んでみることを決意しました。いざ始めると、朝のミーティングですでに知らない用語が沢山飛び交っていましたが、ひとつひとつ丁寧に教えてもらうことができ、着実に知識を蓄えることができました。また、それぞれの得意なことや興味のあることに合わせて業務を調整してもらえるので、私の場合は翻訳がメインなど、辛くなることなく作業を行うことができました。同じような不安を抱えている方には、まず、飛び込んでみてほしいと思います。インターンを通して、エネルギーに関する知識だけではなく、政治・政策・民間企業・個々の地域のそれぞれの事情など、日本の現在を取り巻く様子がより明瞭になります。加えて、様々なバックグラウンドを持ったインターンとの交流も、自身の興味関心をさらに広げてくれると思います。